

○ 客観的な指標の算出方法

成績評価は、本校学則に定める各授業科目の時間数に対する出席時間数を勘案の上、当該授業科目の評価(試験、学習状況、学習報告等)によって行う。

- ・ 試験とは、筆記試験、口述、論文及び実技試験等をいう
- ・ 学習状況とは、演習、実技、学習記録の整理状況等をいう
- ・ 学習報告とは、講師の指示する質問、課題に対する報告をいう

ただし、臨地実習の評価については、記録、口述及び看護実技等を総合して行う。

各授業科目について、出席時間が3分の2(臨地実習は5分の4)以上で、かつ評価が60点以上の者に対し、所定の単位を与える。

授業科目の成績評価は100点満点で算出し、80点以上を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、及び60点未満を「不可」とし、「可」以上を合格とする。

また、成績の分布状況は、年度ごと、学年ごとに授業科目の得点(素点)の平均値を算出することによって把握し、各学生の順位付けを行っている。